



疫病退散 全国の夜空に

新型コロナウイルスのいち早い終息を。全国の花火業者が疫病退散の願いを込めた「Cheer up!花火プロジェクト」が1日にあり、県内でも大分市と玖珠町でサプライズの花火が上がった。

各地の花火大会が中止となる中、「みんなを笑顔にしたい」と若手の花火師が企画。続々と賛同者が集まり、県内からは生島煙火（豊後大野市）と川嶋煙火製作所（中津市）が参加。「3密を防ぐため、日時や場所を公表せずに準備を進めた。

緊急事態宣言の全面解除を受けて日時を決定。北海道から沖縄まで計163社が参加した。

県内は大分市と玖珠町で

生島煙火は午後8時、大分市神崎の田ノ浦ビーチの堤防から75発を打ち上げた。色鮮やかな大輪の花が別府の夜景に重なり、花火師の瑞木睦生さん(51)は「3分という短い時間だったが終息への思いを込めた。見た人が前を向くきっかけになれば」。

川嶋煙火製作所は玖珠町中心部の玖珠川河川敷から、ハートや笑顔をかたどった約50発を上げた。多くの観客の前で花火を上げられる日まで、できることを続けたい」と川嶋康実社長(55)。各地の様子は短文投稿サイト「ツイッター」のハッシュタグ(検索目印)「#cheeruphanabi」で見ることができる。(安里葉冬)



大分市の田ノ浦ビーチから打ち上げられたサプライズ花火＝1日夜、大分合同新聞本社、多重露光撮影・仲道裕司

全国の花火業者が6月1日、疫病退散の願いを込めて一斉に花火を打ち上げるプロジェクトを実施。県内でも大分市と玖珠町でサプライズの花火が上がりました。

①このプロジェクトを企画した若手花火師の思いは何でしょう？

.....

②なぜ、打ち上げの日時や場所を公表しなかったのでしょうか？

.....

③全国で何社が参加しましたか？

.....

④大分県の花火業者の思いを書いてください。

.....

.....

.....

.....